

マイコプラズマ感染症

○どんな病気？

肺炎の10~20%程度がマイコプラズマ（Mycoplasma pneumoniae）が原因によっておこるといわれている、よくある病原体です。発熱としつこい乾いた咳が特徴です。ときに、気管支炎や肺炎を引き起こすことがあります。

○感染経路：飛沫感染（咳やくしゃみ、鼻汁による）と接触感染です。幼児から大人までかかりますが、特に5歳~10歳に多いです。

○潜伏期間：1~3週間です（忘れたころに発症します）。

○主な症状は？

初めに一般的なかぜと同様に発熱、頭痛、だるさ、咽頭痛などから始まり、1~2日してから乾いた咳を認めて、徐々に悪化します。

咳は、発熱と同時に認めることもあります。また、発熱の2日前くらい前から認めることもあります。咳の特徴は、はじめは乾いた、頑固な咳です。後半は痰が絡むようになります。夜に咳が悪化することが多いです。

○検査

- ・綿棒で咽頭をぬぐって（咽頭液）迅速検査ができるようになりました。
- ・血液検査で白血球や炎症反応の測定。
- ・血液検査でマイコプラズマの抗体価を測定。
- ・気管支炎や肺炎を疑うときは、胸部レントゲンを実施します。

○合併症

- ・発疹
- ・中耳炎
- ・喘息の既往のあるお子さんは、喘鳴を認めることができます。

○治療方法

マクロライド系の抗菌薬（クラリスやジスロマックなど）を処方します。

病状によっては、違う抗菌薬を選択することもあります。

抗菌薬を内服開始後、1~2日後より徐々に熱が下がり、咳もおさまってきます。

○登園、登校はいつから？

主な症状が落ち着き、食欲・元気が戻ったら医師と相談して登園・登校します。